

平成28年度 樟蔭中学校・高等学校 学校評価

1 めざす学校像

<p>「高い知性」と「豊かな情操」を兼ね備えた、社会に貢献できる女性の育成をめざす</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 自ら学び、自ら考える力を養う総合的な学力を育む 2 自らの興味・関心を深め、能力・適性をさらに伸ばし、将来の目標を達成する力を育む 3 自らの判断に基づいた行動ができる自立性と、社会生活や学校生活における規範意識の涵養に努めるとともに、様々な教育活動を通して豊かな人間性を育む
--

2 中期的目標

<ol style="list-style-type: none"> 1 学力の育成 <ol style="list-style-type: none"> (1) 授業の充実 (2) 朝の学習や補習の充実 (3) 新しいカリキュラムに基づいた授業の実施と各コース目標の達成 (4) 生徒へのサポート 2 豊かな人間性の育成 <ol style="list-style-type: none"> (1) 生活指導を通じた“Little Lady”の育成 (2) 発達段階に応じたキャリア教育の充実 (3) 励まし合いや思い遣りの心を養う教育活動の充実 3 進路の保証 <ol style="list-style-type: none"> (1) 高校3年生の進路希望の100%実現 (2) 中学生及び高校1年生・2年生に対する発達段階に応じた進路意識の育成 4 教員力の向上 <ol style="list-style-type: none"> (1) 授業力の向上 (2) 教職員の学校運営に係る体制づくり (3) 教員研修と資質の向上 5 入学生の確保 <ol style="list-style-type: none"> (1) 「樟蔭ブランド」のアピール (2) 新しいコース・専科の取り組みについての徹底した広報活動 (3) 施設設備の充実 6 安全安心な学校づくり <ol style="list-style-type: none"> (1) 教育相談の充実 (2) 安全確保の徹底

3 平成28年度 of 取組内容及び自己評価

	平成28年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	取組状況・達成状況・今後の改善方策
1 学力の育成	(1) 授業の充実 ア. 教育ICTの活用による授業の展開 イ. グループ学習などのアクティブ・ラーニングの実践 ウ. コミュニケーション活性化への工夫 (2) 朝の学習や補習の充実 エ. 朝の学習の実施 オ. 補習の実施 (3) 新カリキュラムの実施 カ. 新カリキュラムの実施と各コースの取り組みの点検 キ. 新コースの学力到達度の把握 ク. シラバスの作成	ア. 電子黒板やiPadなどの教育ICTを活用した、より魅力ある授業の展開 イ. 女子校の特性を生かした学び合いによるグループ学習などのアクティブ・ラーニングの実践 ウ. 授業における活発なコミュニケーションへの取組 エ. これまでの総括を踏まえた、より効果的な朝の学習の実施 オ. 明確な目的のもと、生徒の実態に応じたきめ細かな補習の実施 カ. 新カリキュラムの適切な実施と各コースの目標達成に向けた取り組みの検討 キ. 新コースの目標達成に向けた学習における生徒の学力到達度の把握 ク. 教科ごとのシラバスの作成	ア・イ アンケート 結果 ウ 年間総括 エ・オ 実施の有無 カ・キ・ク 実施の有無	ア. 教員個別アンケートによると、電子黒板を利用している教員は約60%。他にiPadやTVを利用する教員も。(○) イ. グループ学習を授業に取り入れている教員は約50%(○) ウ・エ. 中学1年の百マス計算や音読から始まり、中高におけるリスニングや小テスト、ペン字や読書など到達度を見ながら内容を変えて実施。(○) オ. 希望者補習や指名補習など、きめ細かく実施。(○) カ. 教務部や各コース主任を中心に、進行管理と点検を実施。取り組みの修正は適宜。(○) キ. 定期テストや小テスト、外部模試などを活用。(○) ク. 作成しているが、教科によっては見直しが必要(△)

1 学力の育成	<p>(4) 生徒へのサポート</p> <p>ケ. 学力や生活状況の把握 コ. 定期的個人面談の実施 サ. e-ラーニングの活用</p>	<p>ケ. 担任や教科担当者等による生徒の学力や学校生活状況の把握と共有 コ. 担任による定期的な個人面談の実施 サ. e-ラーニングの活用による生徒個々の躰きチェックとリカバリー</p>	<p>ケ・コ・サ 実施の有無</p>	<p>ケ. 各学期末の成績や模擬テスト等の結果を関係者で共有。また日々の生活状況についても適宜意見交換。(○) コ. 全員の保護者懇談は年2回実施。担任による個人面談は適宜実施。(○) サ. 十分に活用するところまでは達していない。(△)</p>
2 豊かな人間性の育成	<p>(1) 生活指導を通じた“Little Lady”の育成</p> <p>ア. 挨拶・言葉遣い・身だしなみ指導の実施 イ. 集団生活におけるマナー指導の実施 ウ. 情報モラル教育の実施</p> <p>(2) 発達段階に応じたキャリア教育の充実</p> <p>エ. 職業観・勤労観等の醸成 オ. 段階的取り組みの実施 カ. キャリア教育プログラムの作成 キ. キャリア・カウンセリングの実施</p> <p>(3) 励まし合いや思い遣りの心を養う教育活動の充実</p> <p>ク. 人権教育の充実 ケ. 視聴覚行事・校外活動・図書館活動の充実 コ. 仲間づくりと自主性の育成 サ. 生徒へのサポート体制づくり シ. 「樟蔭スタイル」による人間関係づくり</p>	<p>ア. 挨拶・言葉遣い・身だしなみ指導の全校的取り組みの推進 イ. 授業や集会に取り組む姿勢など、集団生活におけるマナー指導の徹底 ウ. 情報モラルに係る講演の実施</p> <p>エ. 生徒に望ましい職業観・勤労観及び職業に関する知識を身に付けさせるための有効な取り組みを検討・実践 オ. 自分の興味・関心や能力・適性を理解し、将来について考えさせる段階的な取り組みを検討・実践 カ. 年間キャリア教育プログラムの作成 キ. 担任を中心とした個別指導など、キャリア・カウンセリングを実施</p> <p>ク. 人権教育のさらなる充実 ケ. 視聴覚行事や校外活動、図書館活動の目的の再確認と進化 コ. 様々な学校行事やHR活動、クラブ活動などを通じた仲間づくりと自主性の育成 サ. 特別な配慮を必要とする生徒へのサポート体制づくり シ. 「樟蔭スタイル」の導入による望ましい人間関係づくり</p>	<p>ア・イ 実施の有無 アンケート 結果 ウ 実施の有無</p> <p>エ・オ 検討・実践 の有無</p> <p>カ・キ 実施の有無</p> <p>ク・ケ・コ. サ. シ 取組の有無</p>	<p>ア・イ. 挨拶運動や登下校指導、集会時の指導の実施に加え、日常の学校生活における注意等により効果は上がっている。「挨拶をよくしている 中学93%、高校81%」「ルールをよく守っている 中学95%、高校92%」(◎) ウ. 学年ごとに講演会を実施。(○)</p> <p>エ・オ. 進路指導部主導の高大連携講座や資格取得講座をはじめ、様々な説明会や体験行事を実施。また、高2・高3の進路HRにおける小論文対策講座など、HR等でいろいろな機会を利用して進路意識を高めている。(○)</p> <p>カ. 中学高校ともに学年別・コース別で年間プログラムを作成し、教室に掲示。適宜内容を修正。(◎) キ. 実施をしたが、内容的に不十分なところがある。(△)</p> <p>ク. 弁護士による女性の人権授業や北海道修学旅行前のアイヌ民族についての人権学習などを実施。(○) ケ. 芸術鑑賞行事や校外学舎、夏の高原学舎やスキー学舎など実施。図書館通信等を活用した図書館活動も充実。(○) コ. 生徒自治会役員を中心に、体育祭や文化祭、各種委員会も生徒主体で行われている。(○) サ. サポート教室の設置や、スクールカウンセラーによるサポートも充実。(○) シ. 中学1年に導入。授業やクラス活動において好評。(○)</p>
3 進路の保証	<p>(1) 高校3年生の進路希望の100%実現</p> <p>ア. 進路指導体制の強化 イ. サポート体制の再構築 ウ. 各専科の出口の保証 エ. 卒業生による進路講演 オ. 小論文指導・面接指導の充実 カ. 大阪樟蔭女子大学との連携強化</p> <p>(2) 中学及び高校1年・2年に対する発達段階に応じた進路意識の育成</p> <p>キ. 学力把握とアドバイス ク. 進路指導部に係る行事の充実 ケ. 進路ニュースの発行 コ. 各種検定の実施</p>	<p>ア. 学年と進路指導部の連携による進路情報の周知やきめ細かな進路相談 イ. 講習や補修、講演会や体験活動など、適切なサポート体制の再構築 ウ. 看護医療・芸術身体各専科に対応する大学との連携による出口枠の拡大と保証 エ. 卒業生による進路講演の実施 オ. AO入試や推薦入試対応の小論文指導や面接指導の充実 カ. 各学部学科との連携強化</p> <p>キ. 担任を中心とした、生徒一人一人の学力の把握と進路目標についての適切なアドバイス ク. 進路指導部による様々な行事の継続・充実と適切なフォローアップの実施 ケ. 学年別の進路ニュースの発行 コ. 英語検定・漢字検定・数学検定等</p>	<p>ア・イ・ウ・エ・オ・カ 取組の有無</p> <p>キ・ク 取組の有無</p> <p>ケ・コ 実施の有無</p>	<p>ア・イ. 個人面談や進路HRを適宜実施して、きめ細かくサポート。大阪樟蔭女子大学の教員による説明会や面談体験なども実施。志望校に応じた模擬試験を受験、個人面談において結果の分析・アドバイスを繰り返し行っている。(○) ウ. 芸術身体はこれまでの連携を継続。看護医療は新規の開拓も実施しているが、まだ十分ではない。(△) エ. コースごとに実施。(○) オ. 対策チームを設置し指導の充実を図っている。(○) カ. 大学教員による出張講座や学部学科説明会を実施。(○)</p> <p>キ. 全員受験の模擬試験を年間5回実施し、結果を分析・共有。生徒とも適宜面談している。(○) ク. オリエンテーション合宿や勉強合宿の実施、計画的な進路HRで進路意識の育成を図っている。(○) ケ. 学年別、コース別の進路ニュースを適宜発行。(○) コ. 英語検定は全員受験。他の検定は希望者が受験。(○)</p>

<p>4 教員力の向上</p>	<p>(1) 授業力の向上 ア. 指導教諭による授業力向上への取組 イ. 授業アンケートの活用 ウ. 研究授業の実施 エ. 授業研究チームによる授業改善への取り組み オ. 教科横断の授業研究</p> <p>(2) 教職員の学校運営に係る体制づくり カ. 主幹教諭による円滑な学校運営への取組 キ. 運営委員会の活性化とミドルリーダーの育成 ク. 特命化した機動性のある組織の活用 ケ. デスクネットの活用による会議のリストラ</p> <p>(3) 教員研修と資質の向上 コ. 到達目標システムの使用 サ. 授業観察や授業アンケートの活用 シ. ICT の技術習得研修の実施 ス. 生徒・保護者への対応や危機管理に向けた研修の実施</p>	<p>ア. 指導教諭による指導・助言と様々な企画等の推進 イ. 授業アンケートの実施と活用による授業力の向上 ウ. 研究授業の実施による授業内容・方法の相互チェックと改善 エ. 電子黒板 ST やグループ学習 ST などの授業研究チームのリードによる授業改善への取り組み オ. 全校的な研究授業による教科横断の相互授業研究</p> <p>カ. 主幹教諭の設置による、より円滑な学校運営への取り組み キ. 運営委員会の活性化と、それを通じたミドルリーダーの育成 ク. 評価・検討プロジェクトチームなどの特命化した機動性のある組織の活用 ケ. デスクネットの活用による、ペーパーレスと会議の効率化</p> <p>コ. 到達目標システムによる目標設定と達成度チェック、管理職との面談 サ. 管理職による授業観察やアドバイスと、生徒による授業アンケート結果の授業への反映 シ. ICT 機器の活用に向けた技術習得研修の実施 ス. 日々の生徒や保護者との関わりや危機管理意識の向上に向けた研修の実施</p>	<p>ア・イ・ウ・エ・オ 取組の有無</p> <p>カ・キ・ク・ケ 取組の有無</p> <p>コ・サ 取組の有無</p> <p>シ・ス 実施の有無</p>	<p>ア・ウ・オ. 授業研究や教科横断の相互の研究授業を企画し、実施に向けて前向きに取り組んだ。(○)</p> <p>イ. 生徒全員による教科担当全員対象の授業アンケートを7月に実施。結果は個人別・教科別でまとめ、全員に提示。評価の高い教員の授業を見学。(○)</p> <p>エ. 電子黒板等を活用した教育ICTの充実へリードする電子黒板研究チーム、学び合いを中心とした授業方法の改善に取り組むグループ学習研究チームがそれぞれ積極的に活動している。(○)</p> <p>カ. 教職員の主幹教諭の職務への理解が不足していたため、十分に機能していたとは言えない。(△)</p> <p>キ. 運営委員会における議論が十分活発に行われたとは言えず、ミドルリーダーの育成も不十分。(△)</p> <p>ク. どの分掌にも属さない緊急性のある諸課題について、希望者からなるチームで迅速に対応できるように努めている。(○)</p> <p>ケ. 職員会議においては効率化がかなり進んだ。(○)</p> <p>コ. 提出された目標設定シートをもとに、管理職と面談を実施している。(○)</p> <p>サ. すべての授業を観察し、生徒による授業アンケートの結果も踏まえて面談している。(○)</p> <p>シ. できるだけ多くの教員が参加できるように、日時の設定にも配慮している。(○)</p> <p>ス. 管理職による教員の指名研修の2年目が終了したが、全体的な研修までには至っていない。(△)</p>
<p>5 入学生の確保</p>	<p>(1) 「樟蔭ブランド」のアピール ア. 「樟蔭ブランド」の再確認と新たなブランド作り イ. 広報活動の新たな展開 ウ. 学園広報との連携 エ. 地元などのイベントへの参加・協力 オ. ホームページリニューアルの実施 カ. 公立中学校への広報の充実 キ. 広報イベントの工夫 ク. 広報ツールの活用</p> <p>(2) 新しいコース・専科の取り組みについての徹底した広報活動 ケ. それぞれの目標や学習内容の周知活動 コ. 中高大の体系的な教育体制の構築</p>	<p>ア. 教員や生徒・保護者アンケート結果を踏まえた「樟蔭ブランド」の再確認と、新たなブランド作りへの取り組み イ. これまでの広報活動の検証を踏まえ、広報室を中心とした学校全体による組織的・積極的な広報活動の新たな展開 ウ. 学園広報との連携の強化 エ. 地元をはじめ、様々なイベントへの積極的な参加・協力 オ. 分かりやすく自由度の高いホームページへの変換 カ. 担当を明確にした効果的な広報活動 キ. 広報イベントのあり方の検討と実践 ク. 様々な広報ツールの開拓と活用</p> <p>ケ. 中学校の新コース、高校の設置した専科についての目標や学習内容の積極的な周知活動 コ. 中高大の連携による体系的な教育体制の構築と広報</p>	<p>ア・イ・ウ・エ・オ・カ・キ・ク 取組の有無</p> <p>ケ・コ 取組の有無</p>	<p>ア・イ. 各種アンケートの結果より本校への入学を決定した理由を明確にして、教員全体で共通認識している。また、変化する生徒や保護者のニーズを把握して、新しいコースを設置することや新しい取り組みを実施することにより、新たなブランドづくりに努めている。(○)</p> <p>ウ. 創立百周年記念行事との関係もあり連携を進めているが、全体的な動きにはなっていない。(△)</p> <p>エ. あらゆる機会を捉え、クラブや自治会を中心に取り組みを進めている。(○)</p> <p>オ. リニューアルが進み、魅力的なホームページになってきたが、さらなる工夫が必要。(○)</p> <p>カ. 地域的なバラツキがまだ見受けられる。限られた人数での広報活動の工夫が必要である。(△)</p> <p>キ. 細かな工夫が進み、より充実してきたと言える。(○)</p> <p>ク. 様々なことにチャレンジしている段階。(△)</p> <p>ケ. 塾や中学校へ訪問を繰り返すとともに、様々な情報機器を利用して周知に努めているが、改善の余地がある。(△)</p> <p>コ. 大学の児童学科やライフプランニング学科等一部の学部学科との連携体制を構築。また、国際英語学科や心理学科など他の学部学科との連携強化も企画・推進しているが、充分とは言えない。(△)</p>

5 入学生 の確保	(3)施設設備の充実 サ.新体育館建設工事着手 シ.14号棟トイレ改修工事 ス.化学実験室と生物実験室のリニューアル セ.ランチルームのリニューアル	サ.中高新体育館の建設工事に着手 シ.前年度に引き続き、14号棟トイレ改修工事の着手 ス.化学実験室及び生物実験室の机等を中心としたリニューアル セ.「食卓の上のフィロソフィー」の実践を目指したランチルームへのリニューアル	サ・シ・ス・セ 取組の有無	サ.H29年度に使用できるように、工事が進められた。(○) シ.段階的な改修工事が進められた。(○) ス.リニューアルが完成した。(○) セ.女子校らしい明るいランチルームへのリニューアルが完成した。(○)
6 安全 安心な 学校づくり	(1)教育相談の充実 ア.相談体制の見直し イ.研修による教員の教育相談力の向上 ウ.スクールカウンセラーとのより密接な連携 (2)安全確保の徹底 エ.徹底した避難経路の把握と訓練の実施 オ.救急救命訓練の実施 カ.自転車安全利用の講習	ア.担任等による個別相談を中心とした相談体制づくり イ.カウンセリングマインドに係る研修による教員の教育相談力の向上 ウ.スクールカウンセラーとの連携による生徒一人一人のサポート エ.徹底した避難経路の確認と実地訓練の実施 オ.救急救命訓練の実施 カ.自転車の安全利用促進講習の実施	ア・イ・ウ 取組の有無 エ・オ・カ 実施の有無	ア.体制づくりは進んでいるが、充分とは言えない。(△) イ.一定の効果があると思われるが、全体的なものにはなっていない。(△) ウ.きめ細かなサポートが行われている。(○) エ・オ・カ.計画通り、実施されている。(○)

4 自己評価アンケートの結果と分析・学校評価委員会からの意見

自己評価アンケートの結果と分析	学校評価委員会からの意見（平成29年3月27日）
<p>○生徒[平成28年7月実施] 学校生活や家庭での状況や意識について、30項目についてのアンケートを行った。そのうち、肯定的な回答が特に多いもの（概ね8割以上）の一部を挙げる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の雰囲気は良い ・ルールやマナーを守り、節度ある行動がとれている ・学校へ行くのは楽しい ・今のクラスが気に入っている ・学校内にいるんなことを話せる友人がいる ・家の人とはよく話をする <p>傾向は昨年度とほとんど同様であるが、その中でも学校生活の満足度や規律への取り組みの評価が高くなっている。</p> <p>○保護者[平成28年12月実施] 学校の様々な取り組みについての満足度調査を実施した。その結果、傾向は昨年度と同様であり、中高合わせて全体的な保護者の満足度は高く（8割以上）、保護者から見た生徒の満足度も概ね8割となっていた。特に「生活指導」についての評価は中高ともに高い。</p> <p>入学理由については中高共に高い順から、「伝統と実績」「通学の利便性」「内部進学制度」であった。また、本校生のイメージとしては高い順に、「明るい」「真面目である」「落ち着いた」となっている。</p> <p>○教職員[平成29年2月実施] 現在の取り組みについて、24項目についてのアンケートを実施した。生活指導や学校行事に対する自己評価は昨年と同様高いものであった。特に自己評価が昨年に比べて高くなっているのは、学校の特色・講座の開講・生徒の自治会活動である。また、学校全体で取り組むべき課題に対する意識は向上しているが、学習面での取り組みや行事の在り方についてはまだ工夫・改善すべき点がある。</p> <p>【アンケート結果から～これから取り組むべき課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業方法の工夫や内容の精選など、授業の質のさらなる向上 ・学習や行事などにおける、自立した女性を育成するための様々な取り組みの点検と改善 ・生徒の成長をより一層サポートするためのシステムの構築 ・ミドルリーダーの育成を中心とした、個々の教員の力量アップへの取り組み ・施設や人材など、中高と大学との連携の強化 	<ul style="list-style-type: none"> ・既に取り組んでいるICT教育やグローバル教育、これからさらに充実しようとしている「総合的な学習の時間」の内容など、もっと積極的にアピールしたほうが良い。 ・グループ学習などのアクティブ・ラーニングの実践等、古風に見えて新しいことをどんどんやっている現状を強くアピールして欲しい。 ・歌が多く魅力的な高校の卒業式や、背筋が伸びていて所作が身に付いている中学の卒業式など、随所に樟蔭らしさが十分に感じられる。 ・美しいもの、純粋なこと、崇高なところなどに触れて感動する心など、生徒自身はどう感じているかは分からないが、良い雰囲気や育っている。 ・様々な機会に、生徒の魅力を前面に出して欲しい。 ・広報活動は地道に進めることが大切だが、現役の生徒や卒業生、保護者も巻き込んだPRも進めてみてはどうか。 ・すべてのHR教室に電子黒板を設置するだけでなく、図書館や体育館においても活用しているのは素晴らしい。また、コミュニケーション力が求められている中で、グループ学習を推進しているのは大変評価できるし、効果が楽しみだ。 ・周りの中堅公立高校が女子校化している現状の中で、私学の女子校としての魅力を、樟蔭の女子教育の伝統というものに求めてはどうか。 ・キャリアサポートの取り組みは素晴らしい。これまでは通信制の学校や、専門の学校に求めていたが、樟蔭という伝統校でも取り組み方ひとつで手厚いサポートが可能になることが分かった。 ・プライドカードの取り組みは、褒め育て教育の実践として素晴らしいことである。子どもは褒められることや認められたりすることで、より意欲的になれる。さらに進めて欲しい。 ・塾などは、学校の教員がどれだけ一生懸命に見てくれるかというところで評価する。教員の頑張りが一番である。 ・目的を明確にしたプロジェクトチームをその都度設置し、それぞれに任せるといった手法を採っているが、機動性がよく発揮されると同時に、人材の育成の観点からも素晴らしいことである。